

員にいらつしゃいますし、選考委員もこの分野において国内外を問わず第一人者の先生方にお願ひしているの

研究助成金の申し込みはどのようにするのですか。

九十九 毎年8月初旬に、全国の大学医学部や医療に関係する病院や研究所に助成金公募要領をお知らせして

いたいただき、9月から11月の間に事務局宛に申請書を送つていただきます

ます。申請書は選考委員会で審査されまして、1月末に受賞候補者が採択

されます。その審査結果を受けて最終的に理事会で決定し、選ばれた

方々には3月に助成金が贈呈されます。対象は、研究者だけでなく、病

気の子どもたちをケアされている養護学校の先生方やリハビリのスタッ

フ、看護師さん等々、この疾患に関わる療育や教育に関する研究課題も

対象です。ご本人が二分脊椎で、大学の講師になつておられる方が二分

脊椎患児の療育、療養についての研究で受賞された実例もあります。

長嶋 年齢制限が45歳までの、研究費が潤沢ではない若い人を後押しし

た。アインシュタインの脳の標本を持つておられるという、国際的な神経病理学者でいらつしゃいます。生田

先生がおつしゃつたことで今も記憶に残つているのは、「私は、受賞者がど

のような仕事をなさつておられるか、後々まで視させてもらつていま

す。それが審査をして選んだ者の責任だと思つています。若いときにこの

財団の助成を受けられた方の多くは、受賞されたテーマの研究を続け、

深めておられる。後々研究者として高い評価を得ておられるのを知ると

嬉しくなります」という主旨のことを言われたことです。

澤田 本当に真面目で熱意のある方ばかりですね。

長嶋 先天性の脳や脊髄の中樞神経の病気というのは、早くに亡くなつてしまふことも多いのですが、

二分脊椎と水頭症は助けることができます。障がいを持って生まれてはあ

りますが、成人して生きていけます。障がいを持つたまま社会参加も

されますし、進学しているいろいろな職業にも就かれています。障がいがあ

つてもそれぞれ自分の得意分野を伸ばして、中には障がい者スポーツで活躍されたり、弁護士資格など

をとつて自立しておられる方もあります。非常に社会的な広がりを持つた病気です。障がいの程度にかなり大きな差があり、病気として捉えにくい病気だとも言えます。こ

九十九 設立から27年になります。が、今まで継続できたのは、長く支援してくださる方々に出会えたということも含めて「奇跡」だと感じます。

長嶋 松本先生が亡くなられてから2年半になります。理事、評議員、

選考委員ともに錚々たるメンバーですが、これはやはり松本先生のご人徳だと思ひます。

九十九 澤田前理事長からの経済的なサポートが無ければできないことでした。澤田前理事長は陸軍でい

らして、海軍の松本先生とは共に競争を体験しておられて、思いが通じる間柄でいらしたのだと思ひます。

長嶋 お2人の盟友の友情なくしては成り立たない財団です。

澤田 もともと当院に脳神経外科を創る時に松本先生には大変お世話になりました。九十九さんは財団

設立前から松本先生の秘書をしておられて、財団設立にあつて、一緒に

来ていただきました。設立当時はちようどバブルが崩壊して慈善会存

亡の危機とも言える一番大変な時期でしたので、基本財産を捻出するの

に、前理事長はずいぶん苦勞したようです。

本来でしたら今日(3月8日)が今年度の贈呈式だったのです

長嶋 新型コロナウイルスの流行のため急遽延期いたしました。例年、

助成金を差し上げる方々に来ていただいて、研究内容を簡単に発表して

列席いただき、私どもがどんな思いで助成金を出しているかということ等をお話したりします。今後も研究

を続けていただけるように背中を押すような意味合いのセレモニーで

す。毎年、研究者として相応しい方々が選ばれています。お二人ずつお

顔を見ながらお話ができるので、非常に良い贈呈式です。

九十九 今回はお1人に100万円ずつ、3名にお渡ししました。

長嶋 ささやかではありますが、貴重だと思ひます。

今後の課題としては成人された患者さんのサポートが十分ではありません。障がいを持つた方に対するサ

ポートです。メディアカルよりも社会的なサポートが必要とされています。

大人の方の状況がはつきり掴めていないところが問題かもしれません。

最近では正常圧水頭症に関する研究助成申請も増えてきました。まだまだ確定診断が難しい疾患です。

長嶋先生は、兵庫県の病院事業管理者をされておられますね。

長嶋 兵庫県はこども病院を含む13の県立病院を運営しており、病院

事業管理者としてそれらの経営を荷つています。小児科というと15歳

くらいまでだと思われれますが、最近AY A世代と言って思春期とヤング

されないAY A世代の治療費の補助をすることになりました。また、こども病院ではAY A世代の病棟を作ることを考えています。兵庫県の

施策としても、小児がんの治療における妊孕性の保護なども補助できる

ようになりました。二分脊椎・水頭症の子どもたちについても成人に移

行していくAY A世代の医療、成人したのちの医療に取り組みたいと考えています。また二分脊椎・水頭症

だけでなく、さまざまな障がいを持つた人の就労も大きな課題です。

九十九 財団としても、病気や障がいに対する理解を深めていただけるよう啓発活動に努めていきたいです。

澤田 松本先生は病気の治療に関しては、患者さん第一に考えられて

本当に妥協のない方でした。財団設立者2人の思いを将来へ繋いでいきたいと思つています。

◆長嶋 達也 プロフィール

- 昭和52 神戸大学医学部卒業
昭和52 神戸大学医学部付属病院脳神経外科研修医
昭和53 九州大学附属脳神経病研究施設・神経内科研究生
昭和60 神戸大学大学院修了
昭和60 神戸大学医学部脳神経外科助手
昭和60 Visiting Fellow, National Institutes of Health, National Institute of Aging, Laboratory of Neurosciences
昭和62 神戸大学医学部脳神経外科助手、病棟医長
平成8 神戸大学医学部脳神経外科講師
平成12 兵庫県立こども病院脳神経外科部長
平成25 兵庫県立こども病院 病院長、神戸大学連携大学院客員教授
平成28 日本二分脊椎・水頭症研究振興財団 代表理事・会長
平成29 兵庫県病院事業管理者

●公益財団法人日本二分脊椎・水頭症研究振興財団

過去の研究助成についてはデータベースのページに掲載しています。

〒654-0047 神戸市須磨区磯馴町4-1-6
事務局 Tel 078-739-1993(直通)
Fax 078-732-7350(直通)
e-mail jsatoshi@xa2.so-net.ne.jp
https://www.jikeikai-group.or.jp/jsatoshi/index.html



(故)松本悟前会長



(故)澤田善郎前理事長

ありがとうございます。海軍兵学校の出身者であられる松本悟先生と、その強い思いに心を打たれて基金を用意された陸軍経験のある澤田善郎前理事長のお話には、今では希薄になった強い人間同士の絆を感じます。そしてお2人が亡くなられても、揺るがない思いがそこに在るので、多くの方々によって財団が支えられているのだと感動しました。